

# 2022 本日のテーマ「昨年読んで面白かった本」

実施日：2023年1月22日

## 1 「そして、バトンは渡された」

瀬尾まいこ／著 2018年 文藝春秋 【Nセ】

とてもおもしろい物語です。話は夏作や賞をとった作品を今まではあえて読まずに、いままでこの小説で考えを改めました。

## 2 「自転しながら公転する」

山本文緒／著 2020年 新潮社 【Nヤ】

現実的な物語が身近に感じられる作品です。最初から最後まで読みたいとわかったことがあり、



## 3 「神と王 亡国の書」「神と王 謀りの玉座」

浅葉なつ／著 2021年～2022年 文藝春秋 【SNア】

「自分の足を立て、前を向け、生きるか死ぬかは自分で決める。泣か笑うか神に訊くな。」 — 架空の世界の物語ですが、現実世界の問題や自分の心のあり方を知らず知らずのうちに考えさせられました。



## 4 「君と僕。」1～15巻所蔵 (全17巻)

堀田きいち／著 2005年 スクウェア・エニックス【マ/ホツ】

高校生の青春がぐっと詰まった1冊。



## 5 「切手デザイナーの仕事」

間部香代／著 2022年 グラフィック社 【693.8】

切手をつくる「切手デザイナー」さんは、日本に何人いるかご存知ですか？ 現在8人。8人8様です。切手という小さな枠の中には、いろいろなエピソードがたくさんあります。



## 6 「ボタニカ」

朝井まかて／著 2022年 祥伝社 【Nア】

「草木とともに」

牧野富太郎／著 2022年 KADOKAWA 【470.4】

あわせて読んでみてください

どの図書館にもある牧野と名が付く植物図鑑。の著者である

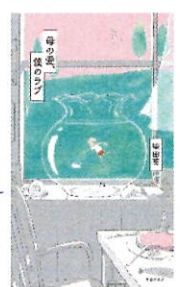
牧野富太郎博士の一代記。今年4月からの朝刊「らんまん」のモデルです。



## 7 「母の愛、僕のラブ」歌集

柴田葵／著 2019年 書肆侃侃房 【911.1シ】

日常の何気ない一瞬を切り取った短歌集です。著者の独特な感性が面白くて、声を出して読みたくなるような言葉運びが魅力的な一冊です。



## 8 「やさしい猫」

中島京子／著 2021年 中央公論新社 【Nナ】

表紙のこのほわほわしたパステル調の雰囲気に騙されてはいけません。結構、考えさせられる内容です。たとえ大人に読んで分らないと思ってもいいです。



## 9※ 「医師の一日」

WILLこども知育研究所／編著 2014年 保育社 【498】

## 10※ 「薔薇とビスケット」

桐衣朝子／著 2013年 小学館 【Nキ】

## 11※ 「52ヘルツのクジラたち」

町田そのこ／著 2020年 中央公論新社 【Nマ】

## 12※ 「津軽」

太宰治／著 2004年 新潮社 【SNダ】

## 13※ 「雪だるまの雪子ちゃん」

江國香織／著 2009年 偕成社 【Nエク フユ】

## 14※ 「ヒトはなぜ戦争をするのか？」

アルバート・アインシュタイン、ジグムント・フロイト／著 2000年 花風社 【319.8】

## 15※ 「彼岸花」

宇江佐真理／著 2008年 光文社 【Nウ】



※は、投稿や読書会カフェで紹介していた本です。